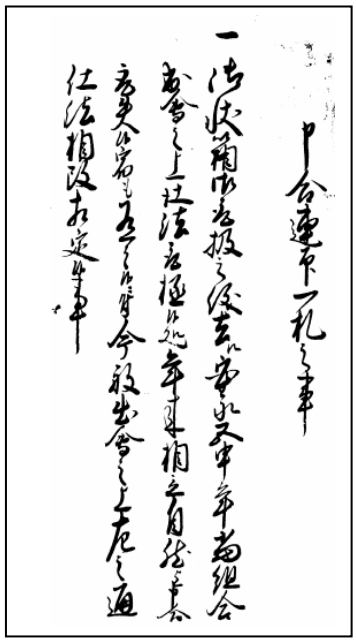
くずし字解読講座　２５

「右」と「左」



前回の続きです。(i)は最初が「今」。次の は、偏(へん)の が「舟」という字の崩しです。旁(つくり)は「攵」に見えますが、「敝」という字はないので、ワープロソフトの手書き入力で「敝」と書いてみると、「般」という字が思いつきます。「今般(こんぱん)」なら意味も通ります。次の は、第 22 回で と出てきたよりは崩していないので、「出」とわかります。

(i)

も第 22 回で と出ていて、ほとんど同じ崩しですが、「會(会)」です。その後は「之上」となります。したがって、(i)は「今般出会之上(しゅつかいのうえ)」。

(j)は、最初のが、意外と迷うかもしれません。これは「左」という字です。左と似た字に「右」があります。「左」は と書き出しますが、「右」は という感じで崩すので、 というふうに筆脈は右肩下がりになります。「右」と「左」の区別は、よく出てくる人名の「○右衛門(えもん)」「○左衛門(さえもん)」で必要になります。

(j)

さて、次のは、その次の が、間違いなく「通」なので、「之」です。したがって(j)は「左之通(ひだりのとおり)」となります。

(k)は、最初が「仕」です。次の も「」はわかりますので、「仕法(しほう)」とわかります。次の も、「相」。問題は最後の です。旁のは「攵」に見えます。偏(へん)の は、第 20 回でという字をやり、これは「頭」と読んだことを覚えていると、「豆」？と見えますが、「豉」という字はありません。実は、 は頻出する字で、「改」という字です。「改」と言われると は「己」以外に見えなくなるから、不思議です。

(k)